夕刊
磐城新聞
六月二十七日發行
定價 一部金五錢 特金六錢 郵稅共五錢
發行人 磐城新聞社
（日曜祭日翌日休刊）

# 短歌の批評基準

水島亨

二

一例を擧げれば前者には生産制限の犧牲者のことやしただけで何等の社會性があるとは言へない。もつと豐年飢饉のことや、關稅戰が闘はれてゐることや、匡救事業が又始まつたことなどを本質的に充分認識した上具体的の事實に就て直感的に鋭く歌はれてゐる場合を含むだらうし、後者には會性があるとは斷じて言へレビュー。ガールの脚に陶醉してゐる彼氏の事や、デパートのショウ。ウインドの夏飾りが綺麗なことや、時にはランデ。ブウの甘い唇の味を思ひ出してゐる事などを漫然と卽興的に、時々は世記未的の惱ましさを以てオナニズム的、咏嘆的に歌ひ出されてゐる場合を含む

だがこゝで吾々が批評基準として採り上げるものは主として前者を指していふのであつて、後者のような世記末の地歌的、不健康なものを指して社會性といふのではない。只複雜した社會現象の中に兩者が混和融合してゐる爲後者の消極的要素をも併せて加味してゐる場合に限つて社會性として容認することはあり得るのだ。又シラリーマンがカフェーのネオン。インを只言つて置き度いことは、一例をあげた生産制限とか、匡救事業などを歌つたものだけが社會性があると言つたのではない。如何に生産部面の事象を採り擧げて歌つたところでその本質迄も充分究明認識したものでなければ、單に自然風物に置き換へるに社會現象を以て其具體的例を以てすれば市民が自分の近所の工場に起つた勞働爭議を單に風景的に歌つたところでそれに社會性があるとは斷じて言へなどを漫然と卽興的に、時々は世記未的の惱ましさを以てオナニズム的、咏嘆的に歌ひ出されてゐる場合を含む

だがこゝで吾々が批評基準として採り上げるものは主として前者を指していふのであつて、後者のような世記末の地歌的、不健康なものを指して社會性といふのではない。只複雜した社會現象の中に兩者が混和融合してゐる爲後者の消極的要素をも併せて加味してゐる場合に限つて社會性として容認することはあり得るのだ。又シラリーマンがカフェーのネオン。インを只言つて置き度いことは、一例をあげた生産制限とか、匡救事業などを歌つたものだけが社會性があると言つたのではない。如何に生産部面の事象を採り擧げて歌つたところでその本質迄も充分究明認識したものでなければ、單に自然風物に置き換へるに社會現象を以てすれば市民が自分の近所の工場に起つた勞働爭議を單に風景的に歌つたところでそれに社會性があるとは斷じて言へ

斯の樣に第一の社會的批評は社會性の有無を以て批評の基準とするのだが更に吾々は吾々の生活の眞實が如何に描寫されてゐるかを測定する批評基準を必要とする

吾々は之を美學的批評と稱するが俗に印象批評とも言はれてゐる。在來から行はれてゐる歌壇の批評は大部分此の批評方法のみであつて主として作品の美的考察、技術的巧拙、表現方法迄及んで居り、更にサラリーマン日本も女給群と五十歩、百歩の社會層を構成してゐることを考慮に入れて其の觀點から歌つたものであつた場合には之とても亦社會性を有つといふ事が出來るのだ。

## 磐城新歌壇

小山田滋選　伊藤興志

○宵闇の山坂路をいそぎゆく水汲む人の心を思ふ

○トロ道の折れ曲りたる山麓に湧き出で夏を深くすむ水

○一滴の水こぼさじと山下りるつつましきかもよ水を汲む心

○こぼれたる此の一滴の水さへも惜しきと思ふ山に住へば

# 晴耕雨讀

ささきあきら

（5）

防人の歌

夫なる物部眞根が旅に出ようとして
家には葦火たけども住みよけゞ筑紫にいたりて戀しけ思はも

と詠んだのに妻の答へて

草枕旅の丸寢の紐絕えば吾が手をつけろこれの鍼持し

と云つた。これから遠い昔に出て丸寢をして衣の紐がとれたならば、この鍼で私の手と思つておつけなさい或は又この鍼を以て自分の手でおつけなさい。といふ意味にもとれる

吾が行の息づくしかば足柄の峰はほ雲を見とゝ偲ばね

私の旅を嘆くならば足柄山の峰を這ふ雲を見つゝ私を偲べといふのである。妻がそれに

吾が夫を筑紫へやりて愛しき帶は解かなな文にかも寢も

私の愛する夫を筑紫へやつてしまはなければならない私は夫のいとしさに帶も解かず嘆きながら寢ませうといふのである。

# 盆下駄

高橋わたる

みんな盆下駄
はいたので
おらもかあやに
たのんだよ

庭に朝顏
咲まし
母やは千葉から
買つて來た。

## 社會の今日

○

吾等は何故に苦しむか
土塊に何等の苦痛なし
禽獸にさほどの苦悶なし、苦悶は人生の偉業を示す

帆足理一郎

椅子深く掛けて樹蔭や
晝寢人

桐花

## 講談

# 劍火無情

（51）

津屋義人作
菅野祐作畫

八州堀口甚五右衛門は下役である上州屋平三郎と金十を隨へ、外に同僚三人とで、花本の二階に藝妓三人女將に女中の大一座で飲めや謳へと、笑ひさゞめいてゐた

九つの鐘の鳴るも知らず騒ぎぬいて、遂に八つ時になつて了つた時、女中頭のお辰は、女將お圓に耳打ちした

『女將さん訴しな事がありますよ。お絹さんが未だ歸つて來ないんです』

『愈々怪しい事があるんですよ、常にないお絹さんが今別れて行くやうな事を言つてね。事に由つたら長次さんに何か愛想づかしでも言つて飛び出したんぢやありますまいか』

『そんなら座敷へ行つて御覽な、座敷へ手を附けるなと言ふ事が、第一訴しいぢやないか』

『さうですね、そんなら見て來ます』

お辰は此處を出て長次の寢てゐる座敷へと、廊下を小股走りに急いだ

お圓も氣懸りになるか梯子を降りて待つてゐた

『タ、タ、大變……女將さん』

消魂しいお辰の聲にお圓よりは階上の一同が突立上つた。中にも聯業柄で平三郎と金十は押取り刀で廊下へ走り出た

轉ぶが如くお辰はお圓の前へ來て、息を喘ませてゐた

『お辰、お前どうしたのさ平生の男勝りにも似合ない』

『イ、イ、イ、エ女將さん早く……ハ、ハ、早く行つて何うかして上げて下さいて、宵の中から來てゞした』

『フーム、それで最前から呼んでもお絹は參らなかつたか』

獨り語のやうに言つて、彼の一室に入つた。死人檢分には皆經驗のある者許り

『ハテ柄物は何であらう』

『匕首ではなく餘程細い物らしい、お絹は何れへ參つた』

お辰も漸く正氣になつて

『ハイ、お絹さんは醉ひを醒ましにと言つて裏庭へ出て參りました』

『ハテ、よもやお絹が下手人でもあるまいが……ヤツ櫛が落ちて居る』

『堀口氏、コリヤ長次なる者がお絹に無禮な振舞を致した所、それを怒つてかんざしのやうな物で兩眼を……』

『オ、お目利き恐れ入つたソレた絹の跡を追へッ』

金十は下知より先に、醉ひも醒めて走り出した。

甚五右衛門は斯る場合にはもう馴れ切つてゐる

『ナニ長次、豫て顏は存じて居る者だ、今晩當家に參つて居つたのか』

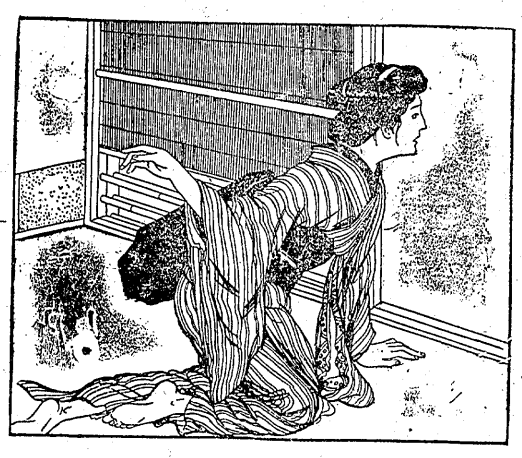
お圓に問懸けながら、早足に行くのを追駈るやうに女將が

『ヘイ、お絹を相手に、色氣なしの飲み明かしだと言つて、宵の中から來てゞした』

『フーム、それで最前から呼んでもお絹は參らなかつたか』

獨り語のやうに言つて、彼の一室に入つた。死人檢分には皆經驗のある者許り

『ハテ柄物は何であらう』



『愈々怪しい事があるんですよ、常にないお絹さんが今別れて行くやうな事を言つてね。事に由つたら長次さんに何か愛想づかしでも言つて飛び出したんぢやありますまいか』

『御一統御檢分下さい。玉五郎身内の長次と申す者、何者の爲にか兩眼を貫かれ無殘の死を遂げて居ります』

吉田眼科病院
平町紺屋町

懸賞尋ね自轉車
弊店所有新品車
鑑札番號 福島縣2 一〇四、二八〇番
平 一臺 六、九四一
右、新品自轉車ハ去ル三月二十二日購入セシガ、四月八日以來行衛不明トナリシ故、發見御知ラセ下サレシ方ニハ懸賞五圓、御届ケ下サレシ方ニハ、ドナタニ不拘拾圓也ノ懸賞金ヲ差上ゲマス故御心當リアル方ハドウゾ直チニ御知ラセ願ヒマス。
平町三丁目、三六（元郵便局裏通リ）
各國產漆器商
共榮漆器店

美味で評判の
イワキサロン
平町電三五二

石城酒造組合主催 喇酒會
優等入選
辰の口本店
平窪村（電話平二八五番）
販賣店 平町二丁目（電五四六番）

醫 開業
諸橋外科醫院
醫學博士 諸橋鐵彌
平町新川町廿七（電話四六四）
診療科目
○內臟外科 ○婦人外科 ○性病科 ○一般外科
○整形外科 ○腦外科 ○皮膚科
入院室 手術室 完備
院

淋藥界の最高權威
無効返金（一日間服効なき時は殘藥引換に全部返金す）
岩里天然別府淋藥
一週間…赤箱—金五圓 黑箱—金參圓
世界の名湯別府温泉で名高い。岩里家の家傳祕藥は男女血ウミ、コシケ、淋病消渴に奇績的効果あり、どんな頑固な痳疾でも旬時日に根治が出來且つ再發することなく注射や他藥で治らぬ諸賢は最後の藥として迷はず……名藥別府淋藥の御服用に依り幸福を得られん事を希望致します。
別府皮膚藥 金三十錢 金五十錢
天下の名湯別府温泉のラヂウム含有の精に各病醫院及最高學府の處方劑集め大成せる皮膚病特効藥であります、たむし、いんきん、みつむし、なまず、しらくも等其他皮膚病に卓効あり。
九州別府市鶴乃園 岩里天然堂
平町三丁目北裏通り
代理店 渡邊いと
（特約店募集）

良品廉賣に勝る
商略なし
磐城セメント特約代理店
金物問屋 和洋銅物
久 釜屋商店
磐城國平町五丁目
電話九番 九九番
振替貯金口座東京一〇九五六番
確實敏捷は久の生命なり

專門大家が畢生の苦心
絕對の「治淋藥」を完成強力の注射原藥を內服さす
創製者 間部薫
責任保証 リン病 消渴 間部淋藥
淋菌は此の藥位强烈でないと死滅しない。
（特長の一）此藥は性病ひ尿科の大家特に淋病消渴治療の權威東京銀座…間部醫院長間部かほる先生が畢生の研究の結晶なり
（特長の二）先生が病院で毎日患者に使用してゐる獨特の注しや原藥を主劑として之に洋やくの粹が配され殺菌力强大なり
（特長の三）服用强烈な殺菌力を有する注しや原藥が全部尿に混り放尿毎に尿道粘膜下の深部の淋菌迄撲滅す
（特長の四）患者自身の洗じよう注入は慢性やコッ丸炎又は婦人なればこうカタルになる恐ろしい危險があるが本劑はし然に內部からにようにより洗じようされ菌を一掃するから絕對其心配かない
（特長の五）じよう劑の藥効が强いに絕對副作用なく安心して服める
【註文】 一週（櫛捲）巻圓 惡性（五圓）
【藥價】 巻料十二錢
（各種有名賣藥アリ）
福島縣平町三丁目三〇
賣藥化粧品 醫療器械 ホシ藥舗
星チェーンストア平支部
電話四二九番

夜診
專門
內科 十二指腸虫病
專門
淋病 皮膚病 婦人病
松村松醫院
（平町南町電一〇七番）

產婦人科 花柳病科
午前宅診 午後往診 入院應需
井阪醫院
平町田町
（元合津醫院跡）
電話五五九番

外科 內科 小兒科 婦人科 全般
醫學博士 渡部義夫
女醫 渡部きい
平町田町大通り（電話二七七）
渡部外科
（入院應需）

お醬油は……ヤマフル
味噌醬油 たひら正宗 經師 食料品
鹽屋 山崎合名會社
福島縣平町
電話（營業部一〇番 本店二七番）
明治生命磐城代理店 山崎與三郎

# 從來の制限を緩和し 積極的に增產を劃す

## 其筋の炭鑛振興對策成る

最近やうやく好況の波に乘り上げた炭界、常磐地方は各炭鑛とも目下全機能を擧げて採炭につとめてゐるが昨今の需要益々旺盛で貯炭會社は近く從來の制限を幾はいよ〳〵枯渇し切角待望分解策するものと觀測されてゐた絶好の機會を逸しる、かくして常磐炭田は久て了ふ狀態にあり出元ではしきに亘る禁足を解かれ明何れも地團駄踏んでゐる、昨年不況對策手段として常磐各炭鑛が加盟してつくり上げた常磐石炭販賣株式會鑛山監督局長は動的に轉換社が採炭制限及び出炭統制せんとする炭鑛地方の一般を號令して以來貯炭量は一情勢並に關係業者の將來に躍激減してゐる、その好況對する覺悟と準備を詳細に時代における常磐地方は一調査する必要を認め七月中ケ年二百五十萬噸の賣物を用意して商談に應じて來た定をもつて關係地方に出張ものがこの數年來現物賣物するがこれを機會に炭鑛地は百七十萬噸前後に減少し方における當面の問題たるてゐるので急激に展開した鐵道運賃の輕減、電力料金好景氣に直面しても急談に問題のコストの引下等に對は應じられないと苦しい立しても充分の資料を集める場に置かれてゐる譯である筈

こゝにおいて業者一般は下半期において出炭制限を幾たい意嚮を有するので販賣たい意嚮を有するのでは近く從來の制限を幾分解禁するものと觀測され分解禁するものと觀測されるく積極的に活動機能を發揮するに至るであらう、この機運を察知した後藤仙臺の機運を察知した後藤仙臺局長は動的に轉換局長は動的に轉換の一般の炭鑛地方の一般の將來に關係業者の將來に詳細に詳細に七月中閉場する閉場する必要を認め七月中に亘る豫に亘る豫に出張に出張する鑛地方に鑛地方における當面の問題たる問題たる譯である筈

## 年來の惡路を救ふ 本町の側溝實現

愈々來月五日着工

工費二萬五千圓半額地元負擔の町營工事として施行する事となつた本町五丁目地内江筈橋、長橋町尼子橋間國道延長七百間兩側の側溝改修工事は地元寄附額も決定したので愈々近日中役場で大に喜ばれて居る

## 米價再た落調

大浦農庫共同販賣

前回より俵四錢五厘安

大浦農庫二十五日の米穀共同販賣は出荷百四十俵四等玄米俵當り八圓三十六錢で入山炭鑛糧食部と四倉町渡邊留五郎氏に落札したが前回より四錢五厘安で次第に落調を辿つてゐる

## 平第一校の臨海學校

着々準備を急ぐ

平第一校では今年も來る八月一日から一週間の豫定で尋五以上の希望者約五十名を募り四倉小學校に假宿し水泳講習の一面自然に接觸し同販賣は出荷百四十俵四等せしめて心身の向上發達を期るべく臨海學校を計劃中である

## 一昨日の快捷に 平商氣込む

近くコーチャー招聘

平商校では一昨廿四日の濱三郡野球大會に快捷したのに意氣込み近くは對磐中、及八月一日の縣下中等學校野球大會に必勝を期し技倆の完璧をはかるべく目下專修大學にコーチ招聘を交渉

## 蘭價の統制上 夏秋蠶掃立制限

取締所の細心な注意

郡下の春蘭は愈々終末を告げ昨二十六日で閉場した四倉蘭市場を始め植田、勿來では蘭價統制ストック一樣の指導方針から極力掃立制限を督勵する事となり當業者と協力して直に實行運動に入る事となつた

## 遠藤女史慰勞演奏

放送された平町仲町遠藤佐喜郎女史の慰勞歡迎演奏會

此程東京放送局から其の名演奏を豊間海岸へ遠足會を催し海濱で祈禱をなすと

は女史の高弟大嶺辯護士夫人主宰の下に一昨二十五日午前九時より同辯護士宅に於て開催、午後五時盛會裡に閉會、尚ほ和洋合奏各自の隱し藝其他の餘興あり十一時散會した

。。。。。。

幼稚園兒清遊　日本キリスト教會情風幼稚園の子供さん達五十餘名は二十日頃の如し（括弧内は昨年）

白最高六、六一錢（二、三十四貫九百十匁、六萬八千二百六十二圓八十九錢。黄五百七十八貫、一萬八千二圓六十錢を增した。尚、最高六、四三（二、四三）黄最高六、四三（二、六一）最低四、一〇（二、〇〇）買馴六、〇二（二、四四）最低四、五〇（二、八九）買馴五、九七（二、四三）黄最高六、四三（二、六一）最低四、一〇（二、〇〇）買馴六、〇二（二、四四）

## 赤井嶽でキャンピング

平商校の新しい試み

平商校では今夏中の体育行事として來月上旬を期しキャンピングを營むべく目下蹄場配屬將校の手に依つてプラン作成中であるが大体場所は關伽井嶽で一泊二日間の豫定であると

## 傳書鳩講演

平三小學校では今廿七日午前八時から東京傳書鳩研究所主任佐藤則書氏を招ぎ傳書鳩に關する講演會を催した

## 病ひは口より入る

平第一校の掲示教育

平第一校では愈々惡疫流行季に入つたので左の如き食事上注意事項の掲示教育をなして居る

食事の前には必ず手を洗ふ事、食物はよく嚙んで食べる事、好き嫌ひをする子供は丈夫な人になれない、味噌汁は毎日食べること、食事は毎日同じ時間に愉快にする事、食後は暫く休む事、早寢早起き努めて日光浴をする事、間食は出來るだけ避ける事

## 片腕代二千五百圓

怪我した職工から炭鑛相手の請求公判

内郷村綏三平澤利三郎（三）求償訴は過般實地檢證も行が昨年七月頃入山炭鑛第四坑附屬鐵工所實習生として働く井日午後炭鑛側から草刈マキドラ作業中ロップが切れ千葉の兩辯護人列席の下に斷してその下敷となり右腕が用をなさざる程の負傷をした爲東京三輪辯護士を代理人として平支部に提起した二千五百圓の損害賠償請求訴訟は過般實地檢證も行が昨年七月頃入山炭鑛第四坑附屬鐵工所實習生として働く井日午後炭鑛側から草刈マキドラ作業中ロップが切れ千葉の兩辯護人列席の下に斷してその下敷となり右腕が用をなさざる程の負傷をした爲東京三輪辯護士を代理人として平支部に提起した二千五百圓の損害賠償請求訴訟は過般實地檢證も行が昨年七月頃入山炭鑛第四坑附屬鐵工所實習生として働く井日午後炭鑛側から草刈マキドラ作業中ロップが切れ千葉の兩辯護人列席の下に斷してその下敷となり右腕が用をなさざる程の負傷をする

。。。。。。

遠野産組總會　二十九日午後一時から本學校で開き小麥增殖に就て協議する

## 九十度の暑熱に 俄然水の世界現出

江筈や夏井川賑ふ

寒暖計の水銀がグングン上昇した今二十七日は今年初めての暑さで午後一時には華氏八十九度六分（神谷農試分場調査）に達し場所に依つては九十度を遙かに突破した處もあり、靜坐し作らに汗ばんで來る蒸し暑さから愛谷江筈、夏井川は大小河童で賑つた

## 四倉市場丈けで 前年より八萬圓增收

今春蘭取次高

四倉蘭市場十七日開場以來百十圓二十錢。黄蘭四千六昨二十六日閉場迄十日間の百三十六貫二百八十匁、取引高は白蘭一萬八千六十萬七千八百九十九圓六十三三貫百八十匁、十萬七千九錢で昨年同期より白千九百

## 吉田禮次郎さん

◇追憶斷片　B　赤井嶽　男

それは嫂の父――現在では自分の妻の父にも當つてゐるが――であるMの葬儀に列した時であつた。その際中宿に充てられた吉田さんの座敷に休憩中そこの書架に背革の金文字燦然たるオイケンやベルグソンの新刊書が並んで居るのを見た自分は、過ぐる自分の青年時代に於てあゐした新味を帶びた而も熱のある教訓を垂れた吉田さんは竟に田舍のインテリでは無いと一入崇敬の念を深めさせられたのであつた

○

然り、其の頃の吉田さんは忙しい新聞販賣と商ひの方を統制し乍ら、尤も賢夫人の内助が多かつたけれど必然の歸結として二十世紀の最初葉に於てノーベル賞乍ら、熱心にアンダラインで幾多の新刊書を讀破しては絶えず其の智識に磨きを掛ける事を忘れなかつたのである

○

ドイツの新理想主義を代表する哲學者として、イエナ大學の教授として從來の唯物論的自然主義的思潮に對抗して一切の文化運動に且働ける純粹持續を認識するもふらぬ眞摯な態度を以て打ち込んだ讀書に因る處の生命を與へる中心的な精神生活を主張した――オイケンは研究した吉田さんは、人の內助が多かつたけれど必然の歸結として二十世紀の最初葉に於てノーベル賞乍ら、熱心にアンダラインで幾多の新刊書を讀破しては絶えず其の智識に磨きを掛ける事を忘れなかつたのである

○

また、ユダヤ系の佛蘭西哲學者ベルグソンを讀んでは『形面上學の根本原理』は、其の思想し行爲する總て態度を崩さなかつた點である、其の思想し行爲する總てが極めてロジカルに出來て來たのは前記の如く傍目あつたつけ』と云つた具合に一部讀者の記憶を喚起し乍ら、尤も賢夫人の內助が多かつたけれど必然の歸結として二十世紀の最初葉に於てノーベル賞乍ら、熱心にアンダラインで幾多の新刊書を讀破しては絶えず其の智識に磨きを掛ける事を忘れなかつたのである

○

また、ユダヤ系の佛蘭西哲學者ベルグソンを讀んでは『形面上學の根本原理』は、其の思想し行爲する總て態度を崩さなかつた點である、其の思想し行爲する總てが極めてロジカルに出來て來たのは前記の如く傍目あつたつけ』と云つた具合に一部讀者の記憶を喚起し

吉田さんの一枚看板は常に所謂明鏡止水的の冷靜なげた事は除りに世人周知の事實であるが次に吉田さんの人知れぬ一面を研究した吉田さんは、人の內助が多かつたけれど必然の歸結として二十世紀の最初葉に於てノーベル賞乍ら、熱心にアンダラインで幾多の新刊書を讀破しては絶えず其の智識に磨きを掛ける事を忘れなかつたのである

○

吉田さんの一枚看板は常に所謂明鏡止水的の冷靜なげた事は除りに世人周知の事實であるが次に吉田さんの人知れぬ一面を研究した吉田さんは、人の內助が多かつたけれど必然の歸結として二十世紀の最初葉に於てノーベル賞乍ら、熱心にアンダラインで幾多の新刊書を讀破しては絶えず其の智識に磨きを掛ける事を忘れなかつたのである

○

また、ユダヤ系の佛蘭西哲學者ベルグソンを讀んでは『形面上學の根本原理』は、其の思想し行爲する總て態度を崩さなかつた點である、其の思想し行爲する總てが極めてロジカルに出來て來たのは前記の如く傍目あつたつけ』と云つた具合に一部讀者の記憶を喚起し